

2024~2025年度 地区スローガン

持続可能なロータリーに！ 共に学び、共に行動
Make Rotary Sustainable！ Learn together Act together

2024~2025年度クラブテーマ

ロータリーを楽しみ、人生をエンジョイ

例会日 毎週火曜日 12:30~13:30 例会場 勝山市市民交流センター 〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地
TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760 URL <http://katsuyamarc.jimdo.co> Email:katsuyamarc@gmail.com
■会長 斎藤清一郎 ■幹事 久保光子 編集発行・文責 公共イメージ委員会

第3056回 例会 (11月19日)

●会長スピーチ

会長 斎藤 清一郎



今年も早や40日余りとなりました。
今日は高い山がうっすらと白くなり、いよいよ冬になるという感じです。
さて、世の中はアメリカ大統領にトランプ氏が再度当選しました。

毒を以て毒を制すではないですが、どのようになるのか非常に興味深くみております。

12月に入りますと、今年は早めのクリスマス家族例会がございます。是非ともご家族で参加をいただければと思います。

今日のゲスト東野さんと名刺交換をさせていただきましたら、織物が名刺になっているのは初めていただきました。色んな織物のお話を聞かせていただけたと思いますので楽しみにしております。

●幹事報告

副幹事 辻 利津子

○例会終了後 理事役員会を開催します。
○地区大会記念誌差し替えのお願い ガバナー事務所

●委員会報告

●次々年度会長選考委員会

瀧上勝夫

理事会の時に開催いたしますので関係者の方よろしくお願ひします。

お知らせ

滝川 博則

勝山城友の会からお知らせさせていただきます。

11月23日(土)13時30分~15時まで勝山城博物館2階左義長檜で第46回サントリー地域文化賞を受賞した勝山左義長ばやし保存会さんによる生演奏があります。「みんなで楽しもう勝山左義長まつり」と題してディスカッションも行いますのでお時間のある方は是非お越しください。

●出席報告

多田 慶一郎

11月19日 欠席6名 73.91%

11月12日 欠席4名 82.61%

●ニコニコ報告

山内 政司

届出欠席

織田 昌弘

ゲスト卓話

羽二重 HUBTAE

(株)東野東吉織物 代表取締役 東野 晃典 氏



社 名：株式会社東野東吉織物
設立年月日：1950年12月(創業：1907年)
所在地：福井県勝山市元町2-9-21
資本金：600万円
事業内容：絹織物(羽二重など)製造・販売
草木染め
繊維製品(小物)製造・販売
BATTANBATTANブランド

代表者：代表取締役 東野晃典(5代目)
HP：<https://higashino-tokichi.com/>
<https://battanbattan.com/>

羽二重プロジェクトの統一ロゴマーク
HUB=素材産地から製品提案産地へ
企業と顧客を繋ぐ集約地点となる

1977年4月11日生まれで、趣味と言いますか、好きな球団は広島東洋カープです。

主な経歴は
2000年 合資会社東野東吉機業場入社
2008年 代表取締役就任
2019年 BATTANBATTAN設立
2024年 福井県繊維技術功績賞受賞

私の想いは、117年間同じものを作っていますが、受け継がれてきた変わらぬモノづくりを大切にしつつ、次代に繋がる新しいモノづくりを目指しています。



株式会社東野東吉織物

本日 プログラム	ゲスト卓話 山田義彦氏	12月3日 プログラム	総会	12月8日 プログラム	クリスマス 家族例会	12月10日 プログラム	8日振替 休会
-------------	----------------	----------------	----	----------------	---------------	-----------------	------------

簡単な当社の歴史・沿革ですが、1907年に創業しました。東野兼吉さんが初代です。(勝山市史第3巻より)

荒井	勝山町	荒井 由松	39	平地羽二重	56
山岸	勝山町	山岸伊之助	40	平地羽二重	24
細野	勝山町	細野松次郎	40	平地羽二重	20
東野	勝山町	東野 兼吉	40	平地羽二重	12
碓	勝山町	碓 権四郎	40	平地羽二重	25
竹内	勝山町	竹内市太郎	40	羽二重	13
石井	北郷村	石井四郎平	41	モスリン	16

機屋は生地を織って商社や問屋に卸すのがメインですが、利益率が悪いとか他の機屋に変えられるなどもあったので、父親が東京で三越百貨店と直接取引開始を始めました。それがうまくいって当社の場合、関東方面のデパートや問屋との取引が活発になっていきました。その後私が入社しまして、経済産業省の近代化産業遺産に認定されました。まだ動いているのに遺産っていうのもどうなのかなと思いつつやっています。当社の需要はほとんど着物関係なので、着物の需要が減っていますから他のこともやってみようかと、ということで、2008年頃に草木染めや染色事業も始めて、それに伴った小物等々も作り始めました。その後2019年に県内の他の機屋さんとブランドを立ち上げました。

当社の根幹の事業はシルクがメインです。福井の織物は明治のころに羽二重織物が盛んになりました。元々は桐生という群馬の方から習って、ほぼ輸出用羽二重とって海外に向けて売ってました。ヨーロッパ、フランス、アメリカなどで女性用のストッキングやブラウスに使われていたと聞いています。その後合成繊維が出てきて海外での需要が減った時に、今度は国内向けの需要を探したところ、赤坂の芸者さんが福井の生地を裏地に使ったら袖通しや肌触りがいいということで、関東で福井の羽二重が重宝されるようになり、着物の胴裏や肌襦袢に使われるようになりました。シルクは今では勝山では当社だけですし、福井県内でも数社しかない状況ではありますが何とか続けていきたいと思っています。

福井羽二重の特徴は「ぬれよこ」製法です。これは緯糸を水に濡らして織る製法で、地合いが引き締まり、より丈夫で滑らかな、光沢の美しい織物となります。乾燥が大敵なため、湿度の高い北陸産地ならではの織物と言えます。

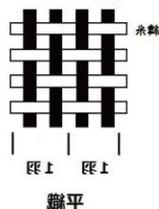
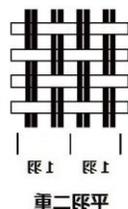
また、近年は、絹と和紙糸やカシミア糸との交織も手掛けています。

羽二重とは、たて糸を揃える道具を箆(おさ)と呼び、その隙間を羽(は)と呼びます。

通常は下図「平織」の様にたて糸を通すところ、下図「平羽二重」の様に細い糸を2本引きそろえ、「羽に2重に通す」ところから「羽二重」の名が付けました。

平面の密度は同じでも厚さが薄くできるため、薄く柔らかい丈夫で美しい光沢のある生地が特徴です。

また、福井県独特の「ぬれよこ」というよこ糸を濡らして織る製法でより丈夫で光沢のある織物になります。



生地の断面図



タテ糸の密度は同じだが、薄い織物ができる

今や誰もが知る福井名物「羽二重餅」の元となったのは明治期に福井の特産品として生まれた絹織物「羽二重」です。欧米にも輸出され福井の産業の中心である羽二重にあやかって作られたのが羽二重餅だと言われています。羽二重を売り込む際に手土産として重宝され羽二重とともに全国に知れ渡っていきました。

残念なのは「羽二重」は着物ぐらいにしか使わないので、一般の方は聞く機会がなく、私の名刺を見てお菓子屋さんと勘違いされる方もおられます。話のネタにもなるのでいいかなと思っています。

着物関係だけではなかなか需要が減っているということで始めたのが草木染め製品であったり、繊維製品も委託でも作ったりしています。他にも伝統技術の保存を目的として立ち上げたBATTANBATTANというブランド事業は伝統技術の維持が世界的な課題となる中、自らの技術を世に発露させることで、産地の技術を次代に繋ぐ役割を担っています。

草木染めを始めたきっかけが、実はこの建物が地場産センターだった頃の草木染教室です。その時に両親がうちの生地を持っていったところ、すごく綺麗に染まったということでした。私が今日着ているジャケットもシルクと横糸に和紙を入れたいもので、地場産センター時代にクルミなどの赤系の染料で染めたものです。こういう風に染色し製品を作っています。

当社の特徴としては、

1. 創業以来変わらぬ製法
2. お客様のニーズに寄り添うフレキシブルな生産体制
小ロットでの個人のお客様に販売したり、学校の卒業記念に草木染用のハチをご用意したりしています。
3. 「見て、触れて、感じる」体感型ファクトリーツアー
まちづくり会社さんと連携したり、学校関係で社会見学的なところで見てもらうこともできます。ただ狭いので10人も入るといっぱいになってしまうので、その辺が対応できないというのがおいしいところです。

今の課題としては、

1. 着物の需要減少による羽二重の販売量減少
2. 部品の製造終了など業界の縮小に伴う様々な問題
3. 羽二重をはじめ福井の繊維全般の認知度不足

それをなんとかしようということで、当社で自社商品販売であるとか、羽二重の他の事業を探したり、工業見学もPRを兼ねて行っております。

また、BATTANBATTANや福井県繊維協会・織物組合活動による「福井の繊維」全般の維持・発展として、去年、東京の三越デパートでデザイナーさんとのコラボ展示販売で、服に自社の情報タグをつけてもらいました。服がどここのブランドかわかっても、生地がどこで作られたのかはわからないのでタグなどでわかってもらえるといいかなと思っています。

最後に当社が勝山に対してどういう貢献をしているかというお話ですが、勝山の中心産業の一員として、かつては女性雇用の促進や、国外・県外への製品出荷により勝山の発展の一助を担っていました。最近は観光への寄与としてツアーの受入れや、観光のお土産になるようなものを作成したりしています。最近ふるさと納税も登録しまして、繊維関連商品の登録が少ない中で勝山市の税収にわずかながらも貢献し、自社ならびに繊維産業のPRに努めているところです。

